Topics 5 学生と保健室で協力し 世界エイズデー・キャンペーンを実施

「からだ」の健康増進を考える保健室と「こころ」をサポートする学生相談室に所属する医師・看護師・臨床心理士は、健康診断や健康相談などが主な業務ですが、学生と一緒に健康教室や料理教室などの活動も行っています。「卒煙さぽーと」や「熱中症に負けない！」などのキャンペーンに加え、昨年秋には「世界エイズデー・キャンペーン」を開催。学生と一緒に活動しました。

東広島キャンパスの大学祭(10月26日)では、事前に保健所のエイズ指導教育を受けた保健医療学部の学生２９名が、ピア・エデュケーターとなって同年代の学生や地域の方々にエイズ感染症の説明をし、保健所による抗体検査の実施に協力していただきました。この様子は、テレビ番組の「Dr. キャンパ」や新聞記事でも取り上げられました。

さらに、世界エイズデー・キャンペーン（１１月２５日～１２月２日）では、広島キャンパス（医療経営学部）と呉キャンパス（看護学部、薬学部、工学部）でも多くの学生ボランティアが加わり、大学キャンパスやJR広駅などで啓発活動を行いました。

Topics 6 保健医療学部 アメリカで10日間の国際医療技術研修

国際医療技術研修は、2012年度に臨床技術学科の学生6名の参加によって始まった海外研修です。好評を博し、2013年度は、診療放射線学科の学生も加え、総勢14名(2・3年生)の海外研修となりました。2013年9月16日～25日、訪問先は昨年度と同様、ロサンゼルス郊外にある医療系総合大学ロマリンダ大学です。

専門分野のプログラムとしては、シミュレーションセンターでの体験、実際に病院で働いている臨床工学技士の話、そしてProton Treatment Centerにあるピンポイント照射の装置・器具の手に取れる距離での見学、その他病院関連の施設の見学も行いました。

ホームステイだったため、日頃から培った英語力を実際の場面で活用するという、日本ではなかなかできない体験ができました。現地の学生との交流も行い、若者ならではの会話に花を咲かせていました。

異国での専門分野体験と、あたたかい家庭や若者との交流を通して異文化理解ができた貴重な10日間の研修でした。

広国大のちょっといい話

11月上旬に、本学ホームページから以下の問い合わせがありました。

お問い合わせ内容

先日「大和ミュージアム」へ行くために、広島駅からJR呉線に乗りました。
そのときたまたま隣に乗り合わせた男性の学生さんがギターを持っていたために、自称ミュージシャンの夫が声をおかけいたしました。

呉駅に着くまでの約１時間、夫とその学生さんの会話はずっと続き、駅で写真を一緒に撮って別れました。
看護師になるために看護学科に通っているとおっしゃっていました。
１８歳のその青年はとてもフレンドリーで、物おじをしない、感じのよい学生さんで、将来看護師になる資質を十分にお持ちの方とお見受けいたしました。

群馬県に戻りましてから写真をPCにダウンロードいたしましたところ、とてもよく写っているので、できることであればなんとかご本人にお送りしたいと思うのですが、あいにくお名前もメールアドレスもなにも聞かずに、「良い看護師さんになってね」と言って別れてしまいました。
せめてお名前だけでもお聞きしておけば良かったと悔やまれます。

このHPへの問い合わせは、もしかしたら学校に問い合わせてみれば、なにか分かるかもしれない…と思ったからでした。
もしも、こちらの意をおくみいただき、学校のメールアドレスをお教えいただけましたら、写真をお送りさせていただきたいのですが。
そして、写真の学生さんがお分かりになったら、ご転送いただく、というお願いはできますでしょうか？

その学生さんにお会いしたのは１０月３０日で、学園の創立記念日でお休みなのだ、とおっしゃっていました。
広島駅を朝９時ごろに出発する電車に乗り、呉駅でその学生さんと一緒に下車いたしました。当方でその学生さんについて分かっているインフォメーションはそれだけなのですが。

この情報を基に、学生を探していくと本学看護学科1年の益田大嗣さんであることが判明しました。
そして益田さんは以下のように話してくれました。

大学が創立記念日で休みだったので、友達と遊ぶためにギターを持ってJRに乗りました。
その座った席で外国人男性と日本人女性の夫婦に偶然出会い、男性がミュージシャンだったこともあってギターを見せてほしいと言われ、そこからギターの話やいろいろなお話しをしました。

初対面で、いきなり電車で話すのには多少違和感がありましたが、ご夫婦がそんなことも忘れてしまいそうなくらいフレンドリーに温かく接してくれ、自分もそれで心を開いて、自分の趣味や看護学生であることを話すと、親身になって聞いてくれて感心していました。
気がつけば友達と待ち合わせの呉駅まで、ずっと談笑していました。
とても感じのいい方々でした。
そして、貴重な体験をさせてもらいました。

自分の持っていたギターは、友達から借りているものだったので、もしギターがなかったら、こういう体験はできなかったかもしれません。
何気ない人とのつながりを大切にしていこうと、この体験を通して改めて思いました。

ご夫婦と学生の橋渡しをした呉学生課も、とても清々しい気持ちになりました。

電車内で会話が盛り上がる

呉駅で記念写真をパチリ